

9月27日(日)、びわ湖エコアイデア倶楽部は秋も深まった琵琶湖西岸の北小松水泳場で地引き網行事を開催しました。この地引き網はこどもエコクラブ「アイキッズ」の環境学習プログラムとして行われるもので、大漁を期待しながら網を引く漁の楽しさを体験すると同時に捕獲した魚の分類などを通じて琵琶湖の魚の実態を学習することが目的です。この日は総勢130人が参加、全長400mもある本格的な網を力を合わせて引きました。水際に引き寄せた網の中にはおよそ1,000尾(魚種9種)の魚が入っていました。こどもたちは歓声を上げながら、網の中で跳びはねる魚をタモ網ですくいました。この日獲った魚の中で一番の大物は体長59cmもある巨大なラージマウスブラックバス、言わずと知れた外来捕食魚の代表的存在です。

地引き網終了後、ゲスト講師(滋賀県立大学学生)から、捕獲した魚にまつわる面白ミニ講義がありました。すぐ判るアユの雄雌の見分け方、ニゴイのニックネーム、カネヒラのユニークな産卵など、こどもたちには勿論大人にとっても興味深い内容でした。もう一つのお楽しみは、獲った魚を調理して試食すること。目の前で捌いて調理したコイとブラックバスの空揚げは大好評でした。

最後、取材のテレビカメラに向かって大きな声でメッセージを発信しました。

『琵琶湖の命はみんなの命。琵琶湖大好き、アイキッズ』

びわ湖エコアイデア倶楽部はBYOSクリーンネットワーク協議会会員として、琵琶湖を中心に、清掃活動、ヨシ刈り、身近な水環境調査、こどもエコクラブ「アイキッズ」の運営等の事業に取り組んでいます。

